
第2章 北上市の文化芸術をとりまく状況

1 文化芸術に関する資源

(1) 文化芸術活動

本市では、早くから市民が主体となって様々な文化芸術活動が行われており、北上・みちのく芸能まつりや北上市民芸術祭、北上市民劇場などの市民参加型の文化芸術活動を支える多くの資源があります。

- ・古くから歴史のある鬼剣舞をはじめ、鹿踊や神楽など多くの民俗芸能が保存伝承されており、四季折々の地域行事で演じられています。
- ・北上・みちのく芸能まつりは昭和37（1962）年に始まり、令和3年度には第60回を迎えました。民俗芸能の宝庫といわれる北上ならではのまつりとして市民が作り上げ引き継がれています。
- ・民俗芸能の保存継承や民俗芸能を生かしたまちづくり・地域づくりを目的として発足した北上市民俗芸能協会は、民俗芸能団体、市民、企業等が一体となって発表の機会の創出や活動状況の調査研究、後継者育成セミナーなどを行っています。
- ・学校教育における文化芸術活動では、合唱や吹奏楽、美術、写真、民俗芸能等の部活動を多くの児童生徒が活発に行っています。近年では北上市立黒沢尻北小学校合唱部の全日本合唱コンクールでの最高賞受賞、同校吹奏楽部の日本管楽合奏コンテスト全国大会での優秀賞受賞、北上市立上野中学校吹奏楽部の全日本吹奏楽コンクールの中学校の部での金賞や日本管楽合奏コンテスト全国大会での最優秀賞の受賞、岩手県立黒沢尻北高等学校の全国高校総合文化祭写真部門での文部科学大臣賞受賞、専修大学北上高等学校吹奏楽部のマーチングバンド全国大会中編成で銀賞受賞、岩手県立北上翔南高等学校鬼剣舞部の岩手県高校総合文化祭郷土芸能発表会での最優秀賞受賞など、多くの成果を上げています。
- ・地域における子どもたちの活動では、北上ミューズコーラス隊が令和6年度に東京国際合唱コンクールのフォルクローア部門で金賞受賞、同じくNHK全国学校音楽コンクールで金賞受賞など、目覚ましい成績を収めています。
- ・市内16地区の地域づくり組織では、文化祭や、生涯学習の講座などを開催し、地域住民の発表の場や文化芸術に親しむ機会を提供しています。
- ・年間を通して市内16地区の交流センターや地域の自治公民館など様々な場所で、市民が絵画や写真、合唱、華道などの教室や趣味のサークル活動を行っています。
- ・平成3年の市町村合併以前から続く北上市民芸術祭は、北上市芸術文化協会の

主催により行われており、多くの文化芸術団体が参加して舞台芸術の発表や美術作品の展示などを行っています。

- ・北上市芸術文化協会には多数の文化芸術団体が所属し、文化芸術の振興のため普及活動や育成活動を行っています。
- ・市民によって自主的に文化芸術を支援する活動が行われており、特定非営利活動法人芸術工房などの市民活動組織が、行政や文化芸術施設、文化芸術団体等が行う事業への協力や文化芸術施設での来館者サービスなどを通じて、文化芸術活動を支えています。
- ・北上市文化交流センターさくらホールでは、演劇・音楽・古典芸能など様々な分野の質の高い芸術作品の鑑賞の機会を提供しているほか、アウトリーチ※や専門人材による芸術体験事業を行うなど、文化芸術活動の機会の創出に積極的に取り組んでいます。
- ・日本現代詩歌文学館では、雑草園祭などのイベントや展示の企画に合わせた詩歌作品を募集するなど、創作活動の機会を創出しているほか、詩歌に関する講座を開催し、詩や俳句、短歌や川柳に親しむ機会を広く提供しています。



ニ子いものこまつりでの
民俗芸能発表



黒沢尻西地区火防祭

(2) 文化財

市内には仏像や建造物などの有形文化財や民俗芸能などの民俗文化財、史跡を含む記念物など多くの文化財が残されており、この地に暮らしてきた人々の文化や歴史を今に伝えています。

これらの文化財は、本市を形作ってきた文化そのものであり、風土として人を育て、地域を育て、まちを育ててきたかけがえのない財産です。特に、数多くある民俗芸能を地域の財産として大切に受け継ぎ、市民の力で守り育ててきたことは、シビックプライドを醸成し、地域づくりの力となっています。

※アウトリーチ：公共機関や文化施設、文化芸術団体などが行う、地域への出張サービス。例えば公共ホールがプロのアーティストを地域の学校や福祉施設に派遣してワークショップ、ミニコンサートなどを行う普及活動。アーティストが市民の生活の場に出向くことによって、広く文化芸術にふれられる機会を作り、芸術に関心のある層を増やすことにもつながります。

ア 民俗芸能

- ・本市には、古くから歴史のある鬼剣舞をはじめ、鹿踊や神楽、田植踊など多様な民俗芸能が保存伝承されており、地域の年中行事をはじめ、北上・みちのく芸能まつりや祭礼行事などで演じられています。
- ・民俗芸能は、100を超える団体が伝承活動を行っており、地域の中で年長者から若者に受け継がれてきました。
- ・各地域づくり組織では、民俗芸能の伝承活動や発表の機会創出などの事業を行っており、地域特有の民俗芸能を地域ぐるみで守り育てています。
- ・北上市民俗芸能協会は、後継者育成セミナーなど課題解決のための取組を行っています。
- ・鬼剣舞（岩崎鬼剣舞保存会及び滑田^{なめしだ}鬼剣舞保存会）は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、令和4年11月30日にユネスコ無形文化遺産登録された「風流踊^{ふりゅうおどり}」のひとつです。



鬼剣舞



鹿踊



神楽

イ 史跡

- ・北上川東岸の段丘上にある樺山遺跡^{かばやまいせき}（稲瀬町）は、縄文時代中期から後期の遺跡で、立石をともなう石組の配石遺構（ストーンサークル）や竪穴住居跡群が発見されています。奥羽山脈を望む雄大な景色とともに、史跡公園として親しまれています。
- ・八天遺跡^{はってんいせき}（更木）は、北上川東岸の段丘上にある縄文時代中期末から後期の大規模な集落跡で、特異な大型円形建物跡や耳・鼻・口形の土製品が見つかっています。当時の習俗と葬送儀礼を示す重要な遺跡であり、市教育委員会では、「史跡八天遺跡保存活用計画」を策定し、将来にわたって保存活用を図るとともに整備を進めることとしています。
- ・江釣子古墳群（上江釣子、北鬼柳、和賀町長沼）は、和賀川北岸に分布する古墳群で、7世紀後半から8世紀前半ごろに造られた120基以上の円墳があります。勾玉や蕨手刀^{わらびてとう}、馬具など多くの副葬品が出土しています。近くにはえづりこ古墳公園があり、園内の広場「カムイヘチリコホ」を会場に、毎年「えづりこ古墳まつり」が行われ、神楽などの民俗芸能が演じられて

います。

- ・寛永19（1642）年に築かれた南部領伊達領境塚は奥羽山脈の駒ヶ岳山頂から釜石の唐丹湾まで続いており、市内にも数か所の塚が現存しています。立花地区と稲瀬地区の境塚は北上市みちのく民俗村の園内にあり、古民家とともに当時の姿を偲ぶことができます。
- ・国見山廃寺跡（稲瀬町）は、北上川東岸の丘陵にある9世紀頃から12世紀頃の平安時代の山岳寺院跡です。伝承によれば、36の堂塔と700を超える僧房を持つ大寺院であったといわれており、平泉が栄える以前から古代仏教文化の中心地であったと見られています。岩手県建築士会北上支部が国見山廃寺跡の価値を活用したまちづくりを提言するなどの動きがあり、北上市立博物館本館では国見山廃寺跡を中心に当市の歴史的特徴を紹介する展示を行っています。



樺山遺跡
（樺山歴史の広場）



八天遺跡
（大形円形建物跡）



江釣子古墳群
（猫谷地1号墳の石室）



南部領伊達領境塚
まのさわはさみづか
（間沢挟塚）



東上空から見た国見山廃寺跡

ウ 歴史的建造物

- ・国指定重要文化財の旧菅野家住宅は、市内口内町に残されていた伊達藩域内の典型的な農家で、北上市みちのく民俗村に移築復元されており、他の古民家とともに展示されています。
- ・羽黒派の修験者の住宅であった多聞院伊澤家住宅及び久那斗神社里宮は、和賀町岩沢地区にある国指定重要文化財で、一般民家の形態の内部に修験道場を含む江戸時代の住宅例として、貴重な建造物です。地区民が地域の財産として大切に守っており、敷地内の池には平泉の中尊寺から株分けされた中尊寺ハスが大事に育てられています。
- ・市内には岩手県指定文化財の鹿島神社宮殿^{かしまじんじやくうでん}や白山神社本殿^{はくさんじんじやほんでん}などの歴史的建造物があり、所有者によって大切に保存されています。



旧菅野家住宅（口内町）



多聞院伊澤家（和賀町岩沢）



鹿島神社宮殿（鬼柳町）



白山神社本殿（黒岩）

(3) 公立文化施設等※

- ・県内の先駆けとして昭和39（1964）年に設置された「北上市民会館」の老朽化に伴い、平成15（2003）年に「北上市文化交流センターさくらホール」が開館しました。施設の建設と管理運営手法は市民ワーキンググループにより検討され、いつでも人で賑わうまちの文化広場をコンセプトにしています。約1400席（移動席含む）の大ホール、中ホール、小ホールのほか、21室の様々な用途の部屋からなるアートファクトリーは、平均85%を超える高い稼働率となっています。

※文化施設等：文化施設（劇場、音楽堂等）及び社会教育施設（図書館、博物館、公民館等）

一般財団法人北上市文化創造が管理運営を担い、市民が様々な芸術や文化にふれる機会を創出するとともに、専門人材が市民の文化芸術活動を支援しており、文化芸術活動の拠点施設として市民に親しまれています。

- ・日本現代詩歌文学館は、合併以前の旧北上市の市制施行30周年を機に設立された、日本で唯一の詩歌専門の文学館です。文学館の管理運営は一般財団法人日本現代詩歌文学館運営協会が行っており、施設内の講堂は市民の講演会や発表会などに活用されているほか、常設展や特別展、各種講座が開催されており市内外に詩歌に親しむ機会を提供しています。また、レファレンスサービスは詩歌関係者からも高い評価を得ています。
- ・北上市立博物館本館や和賀分館、北上市立利根山光人記念美術館、北上市立鬼の館や北上市みちのく民俗村などの施設があり、北上市の歴史と文化を伝えています。また、民俗芸能の鬼剣舞やまつりにまつわる絵画や関係資料の展示が多いことも特徴です。
- ・北上市立の図書館が3か所あり、幅広い世代のニーズに対応するための資料や地域の歴史・自然・伝統文化に関する出版物などを収集しており、市民に読書の機会や地域の文化等の情報を提供しています。
- ・北上市生涯学習センターでは、多様な文化芸術活動ができる学習室、和室や調理実習室などの部屋のほか、絵画などを展示できるミニギャラリーがあり、市民に学習や活動の場を提供しています。
- ・市内16地区の交流センターでは、地域づくり組織の手で地域住民のための生涯学習講座や文化祭が行われているほか、サークル活動などに利用されており、身近な文化芸術活動の場となっています。
- ・北上市保健・子育て支援複合施設hokkoでは、市民が絵画や書道作品等の展示に活用できるホールのほか、食文化に親しむ活動ができるレンタルキッチンを備えており、子どもから大人まで多世代が集い、文化芸術活動を行うことができます。



北上市文化交流センター
さくらホール



日本現代詩歌文学館



北上市立博物館
(本館展示室)



北上市立利根山光人
記念美術館



北上市立鬼の館



北上市みちのく民俗村

2 文化芸術に関する市民アンケート調査の結果

本市では、令和2年度に市民の文化芸術に対する実態を把握することにより、今後の施策の方向性を検討する基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施しました。市内に居住する満15歳以上の男女1,300人を対象に、郵送又はインターネットによる回答を求め、465人（35.8%）から回答をいただきました。

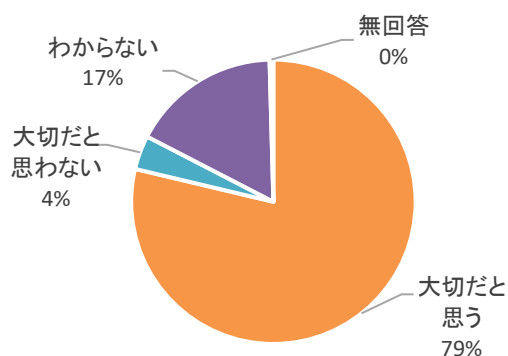
回答者は男性が44%、女性が56%で女性が多く、年代別では10～20代が22%、30代～50代はそれぞれ13～16%、60代は21%で、最も多かったのは70代の25%でした。

調査結果を見ると、「日常生活の中で、文化芸術を鑑賞したり、活動を行ったりすることは、大切なことだと思いますか。」との問いに対し、79%の市民が「大切だと思う」と回答しています。【グラフ1】

一方で、実際に文化芸術の鑑賞や活動を行った頻度を分野ごとに尋ねた質問で、文化芸術を全く鑑賞しなかった人は28%、文化芸術活動を全く行わなかった人は68%でした。このことから、約8割の人が日常生活の中で文化芸術にふれることは大切だと考えているものの、自身が鑑賞以外の文化芸術活動を行っている人は3割ほどにとどまっていることがわかります。【グラフ2】

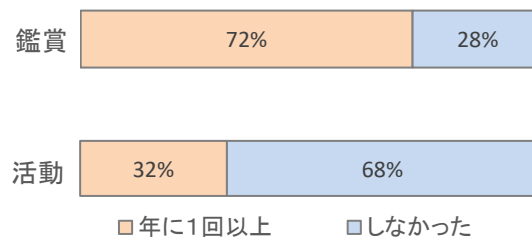
【グラフ1】

Q 日常生活の中で、文化芸術を鑑賞したり、活動を行ったりすることは、大切なことだと思いますか。



【グラフ2】

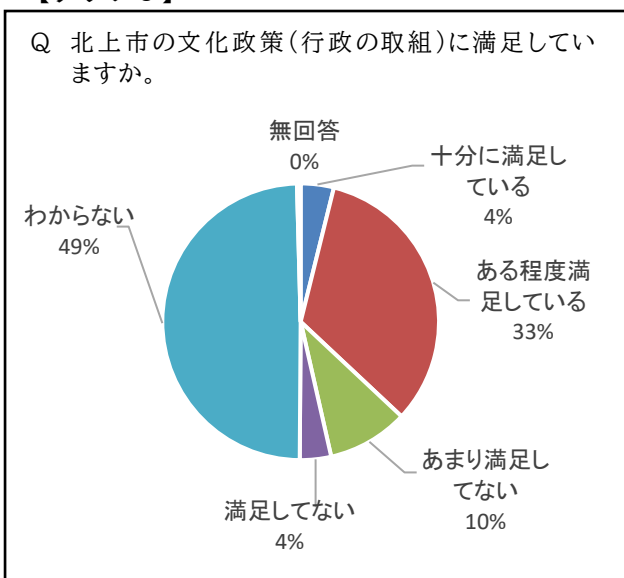
Q 昨年度(2019年度)に文化芸術を鑑賞又は文化芸術活動を行った頻度はどのくらいですか。
(そのうち、どの分野も1回も行っていない人と1回以上は行った人の集計)



「北上市の文化政策（行政の取組）に満足していますか」という問いでは、「十分に満足している」と「ある程度満足している」が合わせて37%、「あまり満足していない」と「満足していない」が14%でしたが、残りの49%は「わからない」と回答しています。【グラフ3】

また、本市は文化芸術活動が盛んなまちだと思うか尋ねた質問では、「思う」が29%であったのに対し、「思わない」が17%で、「わからない」は半数以上の53%となっています。【グラフ4】 「思う」と回答した人は、さくらホールで様々な催しがあることや、郷土芸能に力を入れていること、発表の場が多いこと、学生の参加が多いことなどを理由として挙げている一方、「思わない」と回答した人の理由では、鑑賞や体験の機会が少ないこと、情報発信がない、どのような文化芸術活動を行っているかわからないなどが挙げられており、「わからない」と回答した人も含め、文化政策の取組や文化芸術活動の認知度が低いことが一因と思われます。

【グラフ3】



【グラフ4】

